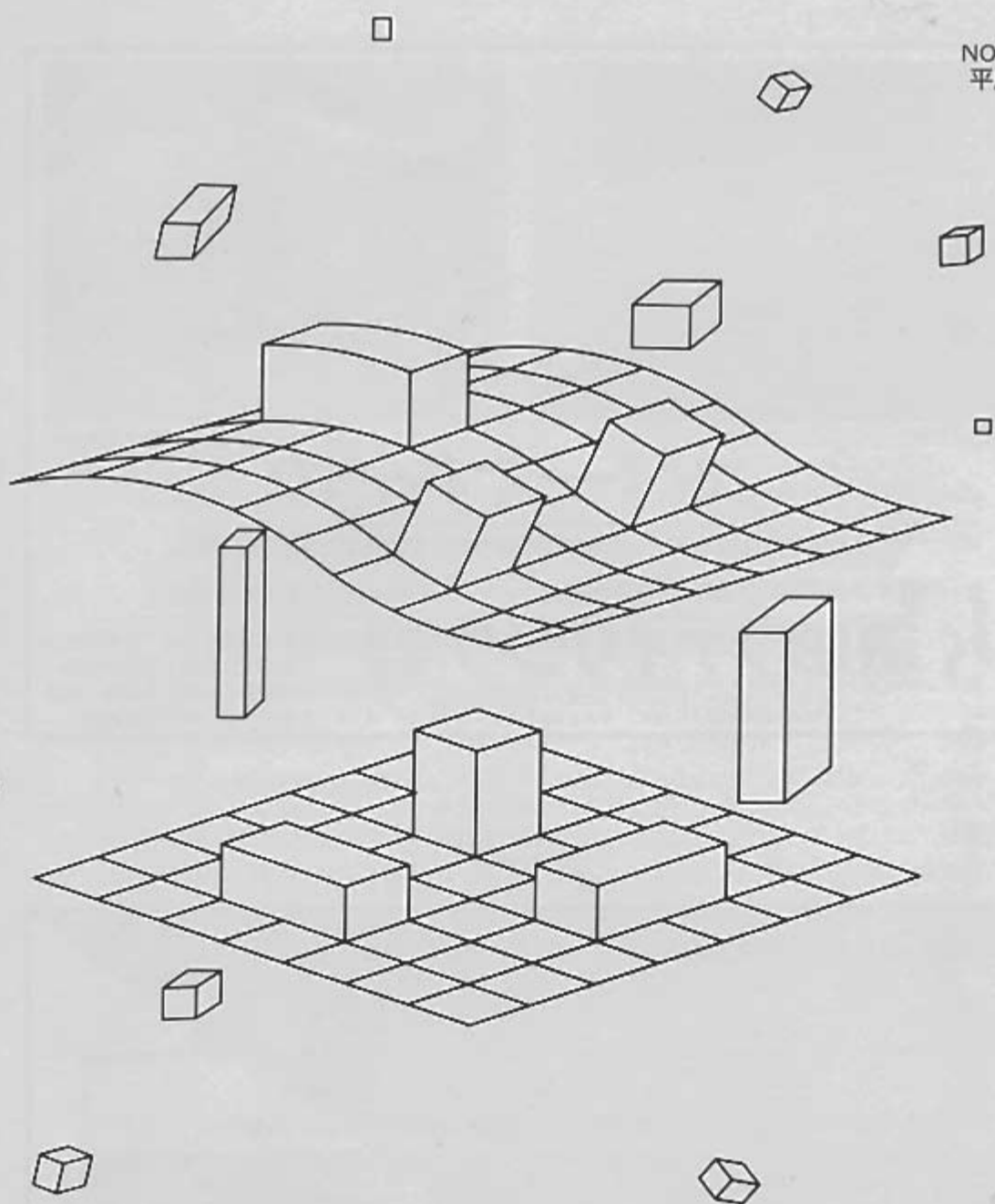


NO. 23  
平成8年版



# ITSUMIKAI

広島工業大学建築学科同窓会 ..... 五 三 会

# 目 次

ごあいさつ	2
大学紹介・展望	4
在学生の声	6
OBの声	8
OBだより	12
在学生だより	16
第22回コンペ入選発表	18
第22回審査講評	22
建築学科ゼミ紹介(卒研テーマ一覧)	24
1995年度卒業予定者一覧	26
広島工業大学建築学科教職員及び非常勤講師名簿	28
第28回(平成8年度)総会のお知らせ	29
五三会活動報告	30
五三会収支決算報告	31
五三会会則	32
五三会第23号(平成8年版)スポンサー一覧	36

# ごあいさつ

## 顧問あいさつ



五三会顧問  
建築学科教授

篠原道正

五三会会員の皆様ご活躍のこととお慶び申し上げます。景気低迷が続いておりますが、明るい兆しも見えはじめ、あと少しの辛抱かと思われまます。

さて、建築学科の最終学年生は現在、卒業研究のとりまとめに余念のない日を送っておりますが、年度末のスケジュールが順調に進みますと3月末には一つの区切りを迎えます。

30有余年にわたる建築学科の幕を閉じるにはいくつかの儀式が必要ですが、それをつつがなくこなしてゆく必要があります。私が今、文章を書いているのもその儀式の一つと言えらると思います。なぜならば、五三会の諸兄弟姉が建築学科の名前を消えることを寂しく思っており、心の拠り所がなくなる不安感を持っているということを理解し、それがそうではなく、明るい展望のあることを示さなければならぬからです。

与えられたテーマは「環境デザイン学科の展望について」と言うことですが、上記のような理由によって、いささか本題を離れたところで私見を述べたいと思います。

さて、我々人間と最も古くからつきあいのある建築物は住宅ですが、その住宅の温熱環境を例にとりて考えてみたいと思います。

評価尺度として室内平均温度を採用して年代順に並べてみますと、いわゆるシェルターとしての技術が確実に向上してきたことがわかります。今や、住宅は高断熱高気密住宅の時代に入り、機械力も駆使されることにより作り出される温熱環境は思いのままです。それでは、このような高度の技術によって作り出された空間は快適かといえれば必ずしも快適とは言えないことがその空間に入ってみるとわかります。

何故か？と言う疑問に対して今は正解を用意することはできませんが、一つの考えは個々の環境因子の最適値の合成は必ずしも環境の総合評価の最適解ではなく、環境因子の複合評価をすることの必要性であり、もう一つの考え方は自然が人間生活に与える影響要

素の見直しであろうと思います。

高度に発達した技術の結果として現れたもう一つの側面は環境破壊の面から見た場合、個々人が被害者の立場から加害者の立場に変化してきたということです。

いずれ我々はこの二つの側面に対して、何らかの方向性を見いださなければ破滅の方向に向かわざるを得ないと言うことが一般の認識であり、持続可能な繁栄の為の努力を続けてゆかなければなりません。

この努力を既成の組織の中で行うのか、あるいは新しい組織を作って行うのかは置かれた状況によって異なると思いますが、教育研究という側面で新しい組織に模様替えして進めようと言うのが環境学部環境デザイン学科と理解できます。この試みは新しい試みですのでいろいろな困難があると思いますが、必然性はあると考えますので、是非とも成功させたいものです。

一方、いろいろな意味での環境問題を考慮して仕事を進めてゆくことは全体の流れて、誰もが考えていることですが、それを既成の組織の中で押し進めてゆこうとしているのが土木工学科建築工学コースと言えます。

即ち、建築学科は改組転換によって環境学部環境デザイン学科と工学部土木工学科建築工学コースに組織上は分かれてきましたが、単に居住環境だけではなく、枠を広げて生活環境までを意識に置いて教育研究に日夜努力を重ね、有為な人材を社会に送り出してゆく志は同じであると理解していただきたいと考えます。

両学科ともすでに3年が経過しようとしております。これからは教育の成果が如何であったかが問われる時期に入って参りました。

同窓生の皆様におかれましてはその趣旨をご理解の上、ご支援下さるようお願い申し上げますと共に、ますますのご活躍を祈念いたします。



## 会長あいさつ 五三会の皆さんへ



五三會会長  
中島伸夫 (S49年卒)

五三會會員の皆様、昨今の建設業界を取り巻く環境は非常に厳しいものがありますが、各分野でご奮闘のこととお察し致します。

私は、今年度より会長を勤めさせて頂いておりますが、諸先輩方が築き上げられた本会をさらに充実させて頂きたいと考えておりますので、皆様のご協力を宜しくお願い致します。また、三上前会長におかれましては、長い間本当にご苦勞様でした。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

皆様ご承知のように、「五三會」は、平成6年に創立25周年を迎え、また、建築学科は創立30周年を迎えました。これを記念して、大学関係者と「五三會」関係者からなる記念事業実行委員会を設立し、各種記念事業を行った経緯はご案内のとおりです。しかし、既に建築学科は平成5年4月に改組転換され、「環境学部環境デザイン学科」と「土木工学科建築工学コース」へと発展的に受け継がれています。私たち建築学科卒業生としては、「建築学」という学問領域が、表面的であれ母校から無くなったことに、大変寂しい思いをしています。「建築学」は、これからもやはり立派な学問領域です。しかし、世の中全体が複合化へと進む中、建築分野も狭い領域に留まることなく、もっと広い領域で活躍できる人材を育ててゆくことが時代の要請です。そして既に建築学科卒業生は、環境デザインの分野で多くの方が活躍しているのです。

そこで、「五三會」としても、このような母校の新しい体制や時代の流れを受けとめ、これまでの「建築学科」卒業生だけでなく、同じように建築を基本として学ばれている「環境デザイン学科」、「土木工学科建築工学コース」の人たちにも本会の門戸を開いてゆき、新たな風を吹き込みたいと考えています。そして既に役員会の承認のもとで、大学の先生方や両学科の学生の方々とは色々な機会を通じて話し合いの場を設け、さらに大きな会として再出発出来るよう意見交換を行っているところです。

こうした準備の中で最も大切なことに、会則の改定があります。現在の会則は「建築学科同窓会：五三會」ですが、これを両学科を含めた「建築・環境系同窓会：五三會」のように修正したうえで、種々の改正を行う必要があります。平成9年3月には両学科の一期生が卒業となります。このため、現「五三會」の体制において、平成8年4月開催予定の総会でこの会則改定を議決しておくことが必要です。従いまして、今回の総会は大切な区切りとなりますので、多くの会員の方にご参加を頂き、会のさらなる発展のために議論を深めていきたいと思っています。

五三會會員はすでに5千名にもなります。社会的にも大きな意味のある会として益々発展してゆくために、會員の皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。

# 大学の紹介

## 学内での新しい動き

バブルが崩壊し、わが国の経済環境は容易には快復しないと言われてきましたが、最近はいくらか明るさが見えだしたとの情報が見受けられます。しかし、地方ではなかなかその兆しが見えてこないように思います。苦しい環境のなかで日夜努力しておられる皆様方のお姿を心に描きながら、一日でも早い経済環境の快復を切望しているこの頃でございます。

ご承知の通り、平成5年4月に発足しました環境学部環境デザイン学科はいよいよ来年4月には卒業生を社会に送り出すこととなります。

昨年度のITSUMIKAI No20に環境学部長 椋代仁朗先生から詳細な説明がありましたように、建築を中心とする関連領域を対象として、快適な環境の創出や良好な環境の維持という立場から物事を考察できる能力を持った人材の育成に努めているところです。

具体的には、これまでの芸術性に力点を置いたデザイナーの教育だけではなく、室内環境はもとよりのこと、建築物を含む住環境、地区・地域環境、都市環境などの面的な環境まで拡大した範囲での企画・計画・設計技術に重点を置くプランナー、コーディネーター等の人材養成により力を注ごうと言うものです。

3年生の就職希望先について調査しますと、環境学部の特性から、かなり広い分野を希望している学生もいます。70～80%の学生が建築系の設計事務所、住宅産業、総合建設業などの仕事に就きたいと考えていますが、残りの20～30%は建築系でなく地質調査、地図情報、環境調査や解析、情報関係を希望する学生がいますし、大学院への進学を希望する学生もいます。またごく少数ですが国際的な活動を希望している学生もいます。

来年度の就職活動については、総長先生をはじめとして教員一同全力を傾けて努力を致す覚悟ですが、皆様のご指導やご援助、ご協力をお願いする次第です。

さて、環境学部の抱えている課題を紹介しましょう。課題は大きく分けて4つあります。即ち、I. 新卒業生の就職、II. 大学院修士課程の設置、III. 環境デザイン学科の履修カリキュラムの改訂、IV. 新学科の創設です。

I. についてはすでに述べたとおりです。II. 以降について述べます。

II. については、広島工業大学は、開学以来専門教育の深化と研究能力の育成を図るため、平成元年4月に大学院工学研究科修士課

環境デザイン学科

教授 門田博知

程として、電子工学専攻、機会システム工学専攻及び土木工学専攻を開設し、更に平成8年4月からは、これまでの修士3専攻を統合する形で、一部には環境学部も協力するという新しい理念にもとづいて博士課程を発足させることができる運びとなっています。これによって学部教育から研究者養成まで、環境学部の修士課程を除いて、大学としてすべて整備されることとなります。これまで社会で活躍してこられた多くの卒業生の方々のご努力に感謝しますと共に心からお祝い申し上げます。

環境学部は現在環境デザイン学科の1学科で、大学研究科修士課程は設置されていません。新卒業生が学年進行に伴って大学院へ進学できるように平成9年4月の大学院修士課程の開設に向けて、大学院修士課程設置準備委員会を設け、平成8年6月の文部省申請を目指して準備を急いでおります。なお、この修士課程では、地域の環境計画を対象として、自然環境科学、居住環境計画学、環境情報学の3分野を柱として具体的構想を練っております。

III. については、環境デザイン学科にも2つの履修コースを設けようと言うことです。すでに工学部では各学科とも複数の履修コースを設けて教育をしております。平成9年4月からの実施を目標に、建築系とその他の系について毎週カリキュラム検討会を開き進めているのが現状です。

IV. については、環境学部全体の将来計画に関する課題です。将来は2～3学科の構成を目指しております。環境問題の解決に向けては従来とは異なって、複合領域に柔軟に対応しうる人材の育成が必要となっています。環境問題に関係する専門分野は広く、人文、社会、経済、理学、工学にまたがっておりますので、新しい総合化の理念のもとに、21世紀をリードする人材の育成を目標に置きながら、新しい学科の新設に向けての検討が鋭意続けられています。

以上の通り学内で検討され、進められている諸課題について概略お知らせいたします。なお、皆様のますますのご発展とご活躍を祈念致しますとともに、就職についてはもちろんのこと、これから卒業していきますデザイン学科の卒業生にこれまでと変わらぬご厚情をお寄せいただくようお願いいたします。

## 土木工学科建築工学コースの展望

土木工学科 建築工学コース

教授 佐藤立美

広島工大建築学科が改組転換した時点で、旧建築学科の構造系教員4名が土木工学科に移籍されることになった。これを契機に、土木工学科のカリキュラムも改訂され、コース制が導入された。この結果、新土木工学科では、従来の土木工学をベースにした都市工学コースと、従前の建築学科エンジニアリングコースの内容をベースにした建築工学コースの2コースをもつ学科となり今日に至っている。入学試験はコース希望と関係なく土木工学科として140名の定員で入学させているが、1年次末に学生の希望調査をし、2年次から本格的にコース受講をすることになっている。

いずれのコースに所属しても、それぞれのコースに開講される総単位数は他学科と同じであり、言い換えれば共通科目を持つ2学科が同一の学科として運営していることになる。

両コースが並存していることの利点として、土木工学と建築学の境界領域の科目が多く開講されているため、より幅広く建設技術に関する知識が吸収できること、特に基礎・構造・施工等に関わる建築技術者を希望する者にとっての教育環境が充実することになる。

しかし、慣習的に土木と建築では構造物の設計基準に使用されている専門用語・記号が異なっているため、設計基準に関わる内容の場合には、同じ科目名でありながら、建築系教員と土木系教員がそれぞれの専門性を生かして別々の内容の抗議を行っている。

建築工学コースのカリキュラムをみると、従前の建築学科と異なり、建築意匠・計画・設備・設計製図関係の科目は、建築士受験に必要な最低限にまで圧縮させていることは、将来純粋に建築に携わる者にとってやや問題が生じるかも知れない。そのかわり、力学関係の科目の増大で、建築施工・建築構造関係の仕事をする上では社会から期待される素養を持つであろう学生が育つものと考えている。

現在3年生までが在籍しているが、建築工学コースを希望する学生は約4割であり、し

たがって、今後毎年60～70名が卒業することになる。

彼らの多くは本学科の特徴を十分理解して、建築技術者を目指しているが、中には従前の建築学科と同様、計画系を希望する学生も少なくない。これらの学生の希望に沿う教育体制の確立も問題であり、当面環境デザイン学科との協力体制の下に案を考えている。

幸い、本年1月建築計画を専門とする福田由美子先生の就任を得て、これらの問題の解決と共に建築計画関連科目の教育も可能な体制ができてきた。今後は、現在4名の建築系教員を数名増強をすることで、学生の期待に応えながら密度の高い建築教育体制の確立を目指している。

さらに、大きな問題として、建築業界が土木工学科卒の建築希望者を何のこだわりも無く受け入れてくれるかどうかということがある。この問題に関しては、建築学科を卒業した皆さんにも今後絶大な支援と御協力をお願いしたいと思っておりますが、既に、大学としては土木工学科の改名を検討し始めている。仮に、建設工学とでも改称されるとすれば、建築工学コースが存在することの意味も建設業界に十分理解されるものと考えられる。

改組転換した環境デザイン学科が建築のソフト部門で開花するとすれば、我々工学部の建築工学コースでは、建築のハード部分で他大学の建築学科でできない建築技術者教育を行うことが使命となる。いずれにしても建築を目指す学生の教育を受け持つ訳で、歩む道は違っても到達目的は“建築”である。

広島工大建築学科卒業生の皆さん、広島工大の建築教育体制は変革していますがいずれにしても皆さんに続くすばらしい建築系後輩を育てるため、支援と助言をお寄せ下さい。

# 在学生の声

## 環境デザインと建築について

神島裕二

現代の建築環境は近年の技術発展に伴い、着実に進歩している。その第一線を行くであろう住環境は、記憶にも新しい阪神大震災の教訓により、その安全性はもとより、ことさら快適性の分野に於いてさらなる進歩を求められていることは言うまでもない。

では、私達が不断に追い続けている快適性を取り囲む大きな枠組みとしての“環境”とは一体何なのか？ととりわけここで言う住環境の要素の一つ一つは、まさしく建築と生活の間に存在する“コト”を意味すると考える。“コト”つまり“クオリティオブライフ”と言い換えることができよう。これこそが人間が追い求める永遠のテーマであると同時に日々刻々と変化し続ける建築と環境をつなぐ永遠の問題であると広義の意味では考えている。

そして今、私達は環境学部の学生の本分として、様々な見地から、その対象、例えば広い地域であるとか、逆に室内環境であるとかそれぞれの状況にプロットし調査研究することは必要不可欠である。その過程に於いて生まれる諸問題は、建築学と環境学のつながりをさらに深め、切り離すことのできないものにするであろう。

近い将来、社会へ進出するであろう私は、常に建築を取り囲む枠組みとしての環境と、建築と生活を結びつけるコトとしての環境を強く意識し、一歩ずつ着実に貢献して行きたい。

## 環境学部・環境デザイン学科

## 環境デザインと建築と就職

福田美佐

環境デザイン学科に入学して早くも3年が経ち、4月には4年生になります。

3年前、建築学科がなくなり、新設された環境デザイン学科に、いろいろな夢を持って入りました。ところが、想像していたものとは違い、大きな壁に突き当たったような気がしました。私以外にも同じ気持ちを抱いている人が多くいると思います。デザインと言う言葉がついているので、デザインのことももっと勉強したいと考えて入ってきた人も、「何か違うみたい…」ともらしていました。私自身、何の気なしに過ごして来ましたが、今振り返ってみると、何を目的に勉強してきたのだろうと思いました。

私は、環境デザイン学科の一期生として、誇りを持って社会に出て行けるのだろうかと不安です。先生方から、建築学科ではないから、構造面もあまり授業でやっていないし、コンピューターでも何でも、全て中途半端なので、今までのようには就職はないだろう、など何度も聞かされ、本当は就職率100%の工大でも、環境学部だけは別なのではないかと思ってきました。しかし、そう思っている、まあ大丈夫だろうと軽い気持ちにもなり、自分で勉強していかなければならないとおもいつつも実際は何もせず、今まで過ごしてきたことは事実です。

2、3年前から始まった就職難で、私達の就職はどうなるのでしょうか。女子というハンディに加え、一期生というプレッシャー。人に頼ってばかりでなく、自分で乗り越えて、納得のいく将来をつかんでいかなければならないと思いました。

## 私の大学生活

下村将晴

私がこの大学に入学して早くも3年が過ぎこの大学での大学生活もあと1年になりました。思えば3年前、これから始まる華やかな大学生活に胸を躍らせていたものでした。又高校生の時までとは違う大学での講義に不安もありましたし、自分の興味のある事について学べるという事で期待もしていました。

私は小さな時から、物を造ったり、建てたりする事が好きで、土木や建築についてとても興味がありました。大学もそういった学科を受けようと思っていましたが、ほとんどの大学では入学する前に、建築か土木のどちらかの学科にしなくてはいけなかったので迷っていました。しかし工大の土木学科では、一年次では、建築と土木の両方の事について学び、二年次からどちらかのコースに分かれるという事に変更になったので、私は迷わず工大を受験し、入学しました。

一年次では建築・土木について浅くではありましたが、幅広く勉強しました。結局私は建築工学コースに進みましたが、一年次に土木の事について勉強した事は、とても意味のある事だと思っています。

二年次から建築工学コースでの講義では、構造や設計製図・計画などを勉強しましたが特に構造力学については、多く勉強したように思います。この頃から将来のある程度の夢や就きたい職業が固ってきました。私は特に施工管理の仕事に就き、現場に出て働きたいと思うようになりました。

三年次になり、講義もより専門的になり、理解するのに時間がかかるようになりました

が、自分の興味のある事について勉強していたので苦にはなりません。又、NKK福山への会社見学なども、今の自分の夢をより身近に感じる事ができてとても役立ちました。

一年後、社会に出て会社で働くようになりほとんど毎日が忙しいと思いますが、常に今の自分の夢を持ち続けて行きたいと思います。

私達が、学科変更の一期生ということもあって就職については不安もありますが、将来に役立つ知識や技術をしっかりと身に付け、残り1年の大学生活を悔いのない1年にして社会に出たいと思います。



## 建築学科の伝統と新設された環境学部について

渡辺武彦建築設計事務所 渡辺武彦 (S44年卒)

私が、本学の建築学科1期生として卒業したのが、1969年(昭和44年)、今から27年前と言う事になります。現在遂に建築学科の卒業生総数は何名くらいになるのでしょうか。3年前のある日、突然「工大より建築学科がなくなる」と言う情報がはいり、ショックだった事を覚えている。日本の私学の状況「有り方」が、情報化社会のカオス的状況の中で、学生獲得の手段等のため、経営者サイドの戦略的で一方的目的のために、内外の純粋な教育関係者や卒業生たちが築き上げてきた伝統や、その他の関係が無視され、いとも簡単に切り捨てられてしまうことは、時代の流れと言えども、納得のいくものではなかった。昨年の暮、ひさしぶりに1期生(建築学科)の同窓会が開かれ、26年の歳月が、それぞれの同窓生を色々と変化させていた。中でも本件について知らない人もいて、やはり今回それを知った人は、複雑な心境を示していた。3年前に建築学科がなくなり環境学部、環境デザイン学科が新設され、今後、建築学科の卒業生や五三会とのコネクションをどの様にしていくのか菅原教授、五三会の役員の方を中心、色々な模索と努力の中で今日に至っている。私は昨年前期より大学側の要請により非常勤として、環境デザイン学科の2回生及び3回生の学生諸氏と過ごすこととなった。大学の内外について二十数年ぶりに見つめる機会を与えられ色々な事を思った。当時と今日迄の本学の変遷の中で、特に現在の学生諸氏の全体的な「おとなしさ」が気になった。これ迄にも五三会コンペで、大学祭の時に訪れていたが、昨年ほさらに大学全体として活気がまるで感じられなかった。又環境学部も新しい学部で3年目を迎えたばかりだと言っても、大学祭のための研究発表や一生懸命作成した作品と思えるものもなく、ただ授業の課題の展示の場として製図室の1画が使用されているにすぎなかった。その中で五三会コンペ発表、表彰に立会ったが、このコーナーだけが活気を呈している様に思えた。学生便覧の環境学部紹介の中に「30有余年になんて培ってきた工学教育の蓄積の上に自

然科学と社会科学とを加え、人間の社会生活により密着した環境にかかわる学部として新設……」とあり、世界規模の環境破壊について各国が色々と模索している今日、エコロジカルな教育も含めて色々な角度から検討されるであろう環境系の学部は今後増々必要とされると思う。そして現在遂に建築学科の卒業生の皆さんが色々な職場で活躍し築いてきた伝統が(今後も続いていくのだが)本学の都合で浮遊しないためにも、環境学部の今後の発展は重要な意味を持つのではないかと思う。そして私立大学の宿命的なものがあるかも知れないが、経営主体あるいは官僚の天下り体質が教育の場に入り込み、せつなく発展しようとしている色々な芽を摘み取ったりする様な、生々しい政治の場であってはいけないことは言うまでもないが、(迷惑するのは、次代を担う学生諸氏であるのだが)今こそ大学に求められるものは外見ではなく、中身の問題であり、神聖な教育の場であると思う。形態を変えても中身がなければ何の意味もない。建築学科から円滑に環境学部へ引き継がれていくであろう伝統と環境学部の今後の発展を見守りつつ私なりに助力できればと思っている。

## 「甘えからの脱皮」

株式会社潤建築設計事務所 川田 潤 (S47年卒)

私が母校広島工業大学で非常勤講師として皆様と共に学ぶようになって、8年を迎えます。24年前に卒業して、施工業者に1年、設計関連に9年勤務し、31才で独立して15年が経ち、素晴らしい建築主との出会いを体験して来た私自身を振り返ってみると、社会人になって3年の間に大きなカルチャーショックを受けました。

仕事場で、何も解からない、何も知らない。「ちょっと誰か助けてくれてもいいじゃない。習っていないのだから、できなくて当たり前だ。」と居直って、大学を出た！と言うだけで思い上がり、自分勝手に我が儘で、親に社会に甘えて生活を許されていた中で、何をやっても行き詰る苦悩の日々、ふと鏡を見つめた時、己の姿の奥に写る醜い自分の心を見つめることができたのです。沢山の人の迷惑をかけ、嫌な思いをさせ続けてきた事が脳裏に浮び、恥かしくて居たたまれなくなり、気付かないまま多くの人の心に傷をつけていた自分が恐くて一瞬砂漠の中に放り出された様な気持ちになり、思い上がっていた心が、べちゃんこに潰れ、死んでしまいたい衝動に駆られました。その時「あっそうだ！人は生まれて直ぐ歩く事も話す事も出来やしない。自分は人より遅れた分、育つのが遅れたのだ。」情けない、悔しい、でも今からでも遅くない又、今やり始めなければ手遅れになる。そして自分をダメにして来た自分の弱い心と戦う毎日が始まりました。誰もいない真夜中、製図板に向い図面を書こうとすれど鉛筆は走らず、原紙の上に涙がポタポタと落ちる。原紙を張り替え、気を取り直し出来ない分、せめて時間で補なおうとするが所詮能力を要求される内容、時間では解決がつかない。

基準法、構造、設備、納り、かたち、予算、言葉、素材、歴史、色、風土、税法、民法……。手当たり次第本を読み、図面集を見るが、それぞれの知識は多少増せども、全体を縦なく接続詞のようなものがなく、方向が見い出せないまま同じところをグルグルと心も体もエネルギーが空回りをする。

「何と建築とは奥が深く難しいのだ。一生

をかけて追求しても後悔はしないぞ。」と苦しさとか辛さの思いを越えて挑む気持ちが芽生え始め、知識=知っている。と言うことと理解していることは違うんだ。何げなく疎かにしてきた1つ1つの事柄の意味をもっと深く学ばねばだめだ。と気付き、同僚との会話や先人建築家の本にある言葉の中に光明を見出し、やっと建築の方向が芽生え、学ぶ事の喜びと楽しさを知った。その時26才を過ぎた頃。

現在100棟余りの建物を世に生み出す機会に恵まれ、建築主の人生最大のドラマを共有することができた経験と感動を、又建築や社会の仕組みと約束事を建築設計の講義を通して学生に伝えてやらなければ……。

彼等は数年後には社会に出てゆき、少なからずとも同じ目に会うのだ。一人一人と接する時間は短くとも、彼等の心に自発的に学ぶ喜びを知らせてやりたい、心豊かな学生生活を送って欲しい、と願い車を学校へ向けて走らせている。

補足になるが、近年、色々な試験は必ず答が予かじめ用意されている択一式や○×式が多く、学生はこの環境下で育って来ている。建築設計には正解も不正解もなく答も用意はされていない。自分自身の考え方や価値観を問う内容で表現力を必要とする。

戸惑う学生達に、教室で学んだ全てを使わないと建築設計は出来ないんだ。実験はその裏付け、設計はその集大成であることを理解して何事も疎かにしないで学んで欲しいと願っている。

## OBの声

### 「昔、今、そして」

有馬秀宣建築設計事務所 有馬秀宣 (S48年卒)

私が広工大を卒業してもう20年余りが過ぎようとしているのであるから、本当に月日のたつのは早いものである。

私は現在45才、この業界ではまだ若手なのであるが(少し罔々しいゾ!!)、建築学科第5期の卒業なので、五三会の会合ではいつも先輩格であり、つまりオジサンなのである。

微力ではあるが、母校の非常勤講師として、建築設計製図などの後輩の指導の協力をさせてもらった一人のOBとして、この間、私の感じた大学の事や、学生についての感想を少しばかり述べてみたいと思う。

大学の先生方も、大分替わられてしまって、私達が教えて頂いた昔若かった先生が今はもうベテランの域である。

広島工大は、私立大学であるにもかかわらず、非常に保守的な雰囲気のある大学であり、大学が地元を重要視する必要性は、理解出来るが、広島という地域だけに目を向けるのではなく、もっと視野を大きく広げてもらいたいし、教える側も、学ぶ側も、多様な顔のある大学に成長して欲しいものである。

しかし、なんといっても建築学科にとっての最大の出来事は、建築学科が、環境デザイン学科と土木工学科の建築工学コースに改組転換されたことである。

この流れは、今や広工大にとどまらず、社会変化に伴い、大学の学部、学科の名称変更やその再編の時期に達しているであろう。

ただ、看板だけ取り替えて、内容は昔のままというようにならぬ様願いたいものであ

る。

これに伴って、五三会が今後どのような形で継続されていくのかは、各関係者とのコミュニケーションが大切な事は言うまでもないが、新たな学科の卒業生の意志を十分に尊重することが望まれよう。

私達の学生の頃と比べ、今の学生は気質や身なりも随分変わって来た。最近では、耳にピアスをした男子学生が数人いたり、以前の様な寝ても覚めても建築大好き少年はめっきり減り、設計製図のエスキースなどでも、しつこくて、粘り強い、こだわりのある学生が少なくなったように思う。

学生諸君!! スーツ等に携帯電話を片手に外車を乗り回すビジネスマン、実はそれは、恰好悪くダサイのである。これからは、一芸人間、つまり、これだけは他人より優れている何かを身につけていることの方が、カッコイイのである。

最後に私事で恐縮であるが、私の設計事務所の名称から環境という文字を、私は3年前に逆に取り除いた。事務所を設立した15年前、環境という言葉は新鮮な響きを発していたが、今は少し氾濫気味である。

すぐれた建築はいつの次代でも、環境を大切にしてきたはずである。

# OBだより

## OB教授誕生 後輩たちをたのむよ!

菅原辰幸氏 教授に  
昭和44年卒業生(1期生)

### □略歴

1969年3月 広島工業大学建築学科卒業  
1987年2月 工学博士(九州大学)  
1995年10月 教授

### □最近の教育・研究活動

昭和63年度から3カ年、九州大学を中心に、日本と韓国等の研究者10名のチームで行った国際学術研究「日韓両国の地方都市の活性化政策に関する都市計画的比較分析」に参画し、韓国の地方拠点都市やインドネシアへ調査に出かけました。

平成7年度から、日韓の工業都市の発展過程地と公害克服の過程を明らかにして、途上国のための工業開発計画立案支援エキスパートシステムを開発することを目的課題とする国際学術研究を行っています。

最近の卒業研究のテーマは、公園・広場の整備、通りの景観や歩行者空間の整備などソフトな内容です。

### □学術論文(最近5カ年)

- 19世紀ヨーロッパ風景画にみる都市景観に関する研究 1990.7  
日本建築学会計画系論文報告集413号
- 日韓地方都市の人口密度分布及び商業集積の動向と商業地の活性化策 1991.1  
九州大学工学集報64巻1号
- 韓日地方工業都市の成長過程と都市計画変化比較 1991.2  
啓明大学校産業技術研究所論文報告集13巻
- 浮世絵風景画の視点場と遠景に描かれた山の仰角に関する分析 1993.11  
日本都市計画学会学術研究論文集No.28
- 広重の浮世絵風景画にみる景観分類に関する研究 1994.7  
日本建築学会計画系論文報告集461号
- USING G.I.S TOPOGRAPHIC DATA FOR QUANTITATIVE LANDSCAPE ANALYSIS OF CITYHALL VIEWS IN 76 KYUSHU CITIES 1995.11

手越義昭氏 助教授に  
昭和49年卒業生(6期生)

### □略歴

1974年3月 広島工業大学建築学科卒業  
1991年3月 工学博士(九州大学)  
1995年10月 助教授

### □最近の教育・研究活動

研究テーマ：建築情報システム・設計情報工学・建築物の統合化設計支援システムの構築法に関する研究：情報処理技術の分野で整理されている設計を支援するシステムの基本概念の中から、主として設計対象モデリング、アルゴリズム論的方法、および知識工学的方法を応用した、建築物の統合化された設計支援システムの構築法を取り入れる研究

### □学位論文

- 建築物の統合化設計支援システムの構築法に関する研究 九州大学 1991.3

### □学術論文(最近の研究)

- IBDS：建築物の統合化設計支援システム、情報処理学会論文誌、Vol.30No.8 1989.8
- 建築物設計における小規模な組合せ選択問題の一解法(階段設計を例として)、日本建築学会計画系論文報告集、第405号 1989.11
- 建築設計支援システムにおける小規模な組合せ選択問題のためのプログラミング手法、日本建築学会構造系論文報告集、第417号 1990.11
- オブジェクトモデルに基づいた建築設計支援システム、日本建築学会情報システム利用技術シンポジウム、第16巻、1993.12
- 生成検証法にファジィ理論を取り入れた設計支援に関する研究、日本建築学会情報システム利用技術シンポジウム、第18巻、1995.12
- 手越・藤岡、他：ニューラルネットワークに生成検証法を組み合わせた設計支援に関する研究、日本建築学会情報システム利用技術シンポジウム、第18巻 1995.12

## トピックス

「五三会」会報第19号のOB  
だより(P11)に、マイコレ  
クションという記事を掲載  
していただいた、カトウ建  
築設計の加藤早苗さん  
(S45年卒)が、この度、鍵の  
歴史図鑑を出版されました  
ので、ご紹介します。

「和錠と宝尽し図鑑」

A4変形版 72頁 写真230点

定価2,500円 (本体2,428円)

監修 広島大学工学部助教授

(日本建築史専攻)

工学博士 三浦正幸

著者・発行者 一級建築士 加藤早苗

販売店 紀伊国屋書店広島店美術書売場

(広島センター街6階)

## OBだより



## OBだより

### 新入社員奮闘記

上村建設 瀬戸達也

社会人になっての一年を振り返って、まず学生のときに描いていた社会人のイメージは暇が今までよりなくなる(当たり前)、社会人としての責任(今でもあまり自覚はない)。とりわけ良いところは、車を買えるかなーということ。

就職氷河期ともあって自分の思った会社に入れません。けど地元(福岡)の会社に入れてそれだけは条件を満たしてました。

そして現実、予想以上のものがありました。

うちの会社が特別ひどいとも思えるけど、まず、寮。6畳ぐらいの部屋にベッドが2つ事務用机が2つ。もちろん二人部屋。さらに会社から帰る前には電話をしなくてはならなくて、順番が回ってきたら洗濯当番をしなくてはならない。こんな寮は全国捜してもなかなか無いでしょう。

そして、給料。残業手当は無し。それでいて残業の無い日はない。それと福利厚生。思い当たるのがない。

おかげ様で、今の交通手段は原付です。…と不平不満はここまでにしておいて、入社してから今までを振り返ると、1995年という年は厄年というのもあるって、いっちゃん(全く)いいことはありませんでした。

4月は、4年間暮らしていた広島がなつかしくて逆ホームシックにかかりました。

その後、バイクは取られるは、熊本の突貫現場に飛ばされるは…。

時々、自分は何のために生きてるんだろう

とか、何でこんなことしてるんだろうか、学生の頃はよかったなあとか思っていました。そしてやめたいという気持ちは毎日のように頭の中を巡りました。

だけどふと思うと、以前のような前向きな気持ちを忘れていたことに気がきました。

今やめたところで、今の自分には何も実力はないし、人生には波があって、今は波が下向きになってるんだから、いつか良いことが来る(はず)…と自分に言い聞かせ、自分自身納得するまでとりあえず頑張ろうかなと思っています。

ついでに自分が何で建築の道を選んだか振り返ってみると、もともと自分は工業製品のデザインを手がけるような仕事がたくてそれ系の大学を受けたのですが落ちて、浪人の時に、実技の勉強もしなくてはいけないのでやむを得ずあきらめて、その次に浮かんだのが文系に近い(?)建築でした。唯それだけの理由で現在にいたる訳ですが、なぜか、理系一辺倒な現場員になっていました。

妥協に妥協を重ねた結果が現在になっているのでこれからは、自分自身に甘えないようにしよう…と思っている今日この頃です。

# 在 学 生 だ よ り



## 平成7年度行事

### 五三会 学生部会

平成7年

- 5月19日(金)  
建築学科親睦会 ビアパーティー 主催
- 5月21日(日)  
4大学合同作品展 出品
- 7月9日(日)  
建築学科ゼミ対抗ソフトボール大会後援
- 11月3日(金)～5日(日)  
大学祭学科展 主催
- 11月3日(金)  
五三会就職ガイダンス 主催
- 11月5日(日)  
長谷川 逸子講演会 後援
- 11月29日(火)～12月2日(土)  
第8回 4大学合同卒計展 出品

平成8年

- 3月25日(月)  
謝恩会 主催

ほとんどの行事が恒例化している中で、新しい試みとして大学祭期間中に行った「五三会就職ガイダンス」は、先生方の発案と五三会本体の厚意により、学生部会が主催することができました。

これから就職活動を始める学生にとって、業界の本音を直接聞くことのできるよい機会であったと思います。

また、建築学科は本年度をもって無くなってしまいますが、建築に関係する科目を修得する学科は、他に存在しています。これからは、それらの学生を対象に、「五三会就職ガイダンス」のような、学生と実社会とが接することができる企画を増やして欲しいと思います。

7月の「建築学科ゼミ対抗ソフトボール大会」は、有志の企画により開催しました。当初の予定より多くのゼミが参加し、ゼミ内の交流はもとより、ゼミ同士の交流も深まったと思います。

やはり、やりたい人が企画して運営した方が、楽しく、人も集まるということを感じました。

## この一年で学んだこと

学生部会会長 久保田 雅生

学生部会会長として、この一年間たくさんの行事を企画、運営し、手伝いをしてきました。これらの行事から、人を集める、人の興味を引く、人に説明する、人を使う、とにかく人を相手にすることがとても難しいことだということを実感しました。

例えば親睦会など人を集める場合、自分達は手前味噌で良い企画だと思い、ポスターやピラを配ってみました。人が集まりませんでした。それは、対象とする人がその企画に価値を感じていないからであり、その原因は主催者側の説明が不十分な場合や、宣伝の期間が短いこと等が考えられました。つまり、相手の立場で考えていなかったからだと気がつきました。その他に、会費や、日時等、その他の条件によっても集まる人数は大きく変化しました。当たり前のことですが、その当たり前を実感しました。

そして行事を運営したり、卒業研究を進めながら思ったことは、「人が一日に出来ることは、ほんの少しの事しかない。」ということです。それは、自分達は一生懸命準備したつもりが、出来上がってみると「たったこれだけの事しか出来ないのか。」と思うような出来上がりで、「たったこれだけの事のために、どれだけの人が、どれだけ苦勞したか何人がわかってくれるだろう。」と思った事によります。また、主催した行事を成し遂げ成功した時の充実感を味わうと、毎日少しずつ頑張っ、何かをすることの価値を感じることができるようになりました。

この一年間で、学んだことは、まだ他にたくさんありますが、自分の考え方が大きく変化し、自分で成長したことを感じる事ができた一年でした。

最後に、この一年間、事あるごとに御協力下さいました先生方、先輩方に厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

## 学生生活の思い出

道菅 ひとみ

共学の高校から、この広工大に入学した当初は、男子学生の多さにかなりとまどいを感じました。理系の、特に工業系はやはり男社会なのだ。と思ったことを覚えています。食堂に入りたいけど、中をのぞくと男子学生しか見えない。もしかしたらここは男子学生専用なのかもしれない。などと、今思えばかわいらしいことを考えながら、女子であることを悔やんだこともありました。

しかし、時が経つのは早いもので、もうあれから4年が過ぎようとしています。"女子だから"という鎖に縛られていた私も、男友達とまじってバイクツーリングに行ったり、工大祭でバンドの一員に入れてもらったり(その当夜祭で囃に飛び込んだり)、三宅駅伝に出場し、栄えある「女子学生敢闘賞」もいただきました。(女子学生は私一人だったので、ムリヤリたのんでもらいました。)

こんな風に私は精一杯学生であることを楽しみました。"女子"という枠も自分が作っていることを知りました。

建築という分野は、とても幅広く奥が深いものです。工業的であり、理論的であり、感覚的である。そんな大きな"建築"に携わっていくために、一つの枠にとらわれない大きな視野を持ち、一つのことにこだわる小さな抵抗ができるようになりたい。

今まで自分なりにやってきたこと、目にしたこと、学生生活の中で吸収してきたこと、いろいろ考えたり悩んだこと全て、無駄なことはないと思います。

卒業後はこれらをうまく自分の中で形づくり、生かしていこうと思います。(男社会の中でも、もうとまどうことはないと思いますし、)あとは、"これからも、精一杯やるだけ"です。



# 22th ITUMIKAI COMPETITION

## 第22回五三会建築設計競技入選発表

五三会建築設計競技も、五三会会員各位をはじめ、県内の大学・高専など関係者の方々のご理解と、ご協力により第22回目を無事終えることが出来ました。ありがとうございました。

本年度は、近畿大学工学部教授としてご活躍の澤登宣久先生に、課題の作成・審査をお願いしましたところ、ご多忙にもかかわらず快くお引き受け下さり、「都市に播く種 — 平和と大通りを市民の都市空間に一」というたいへん興味深い課題を頂きました。

昨年10月11日に応募締切の日を迎え、広島工業大学8点、近畿大学6点、福山大学6点、呉工業高等専門学校4点、広島大学大学院4点、広島大学1点、福山大学大学院1点の計30作品にもおよぶ力作が寄せられました。募集して頂いた皆さん、誠にありがとうございました。

また、同月28日に広島工業大学広島校舎において、多くの応募者の方々が見守る中、公開審査会を行いました。

30作品という数の多さに加え、どれも力作ばかりで審査をされた澤登先生も、だいふ悩まれたご様子でしたが、別記の通り各賞が決まりました。

入選者の皆さん、おめでとうございます。

誌面の都合により、ここでは入選作品の紹介のみに留まらせて頂きますが、応募された作品はどれもそれぞれに興味のある提案がされており、惜しくも選にもれた方もそのレベルは高く、一生懸命に取り組んでいる姿が目には浮かぶようでした。ここに紹介するスペースがないことを非常に残念に思います。

表彰式・懇親会は11月5日、広島工業大学大学祭期間中に行い、懇親会では澤登先生を中心に、また午前中に講演会を終えられた建築家の長谷川逸子先生も参加され、熱のこもった論議が交わされ大変有意義なものとなり

ました。

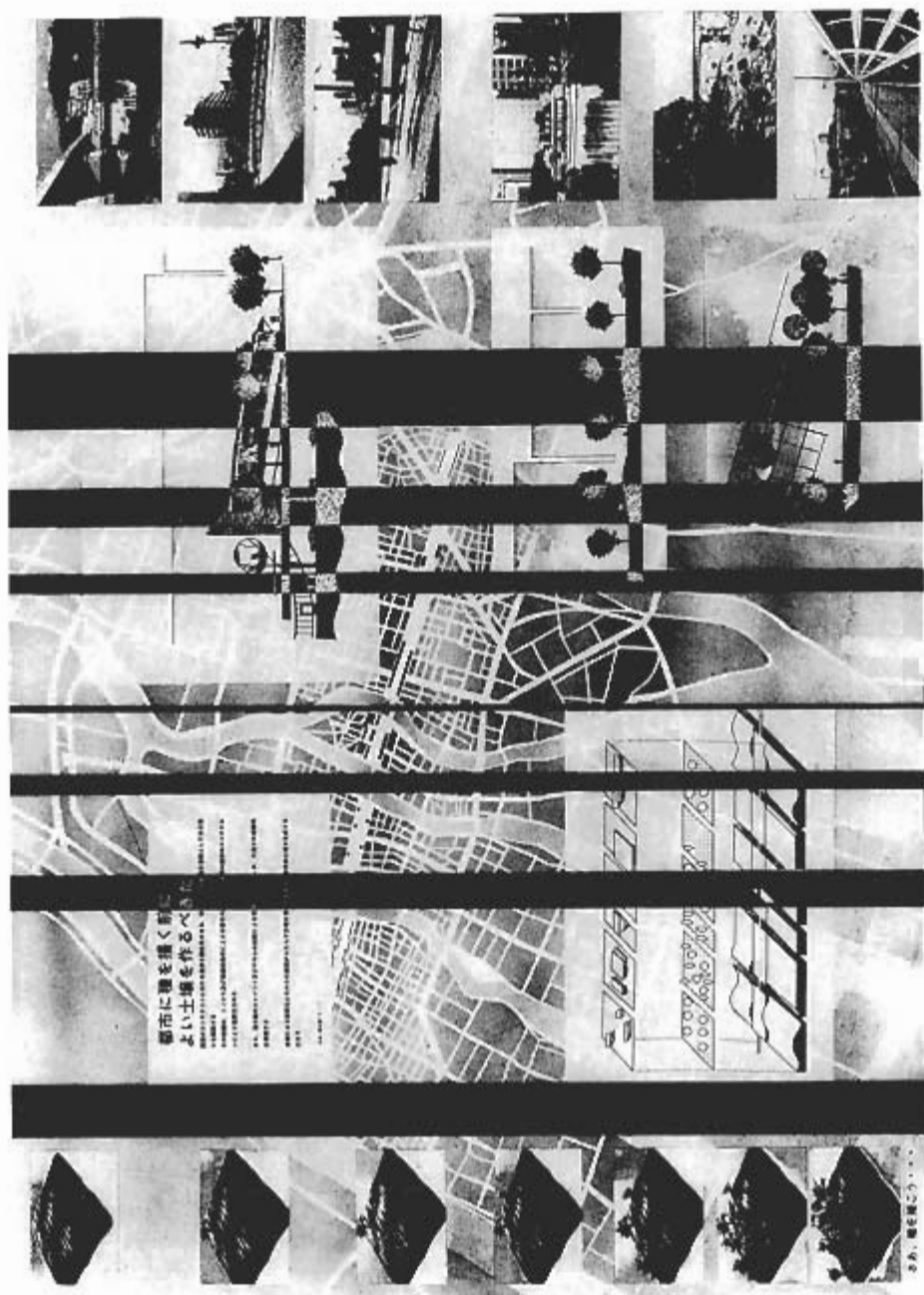
この懇親会は毎年行われ、学生の方々は一線で活躍しておられる審査員の先生との、OBの方々には熱心な学生達との交流の場として恒例となっています。これからも実りのあるものにして行きたいと考えておりますので、どなたでもお気軽にご参加くださるようお願い致します。

澤登先生にはこの事業にご理解頂き、大変お忙しい中課題の作成、審査、講評と貴重なお時間を割いて頂きましたことお礼申し上げます。ご協力ありがとうございました。懇親会では応募者一人一人に熱心にご指導頂き、先生の建築に対する情熱に頭の下がる思いでした。

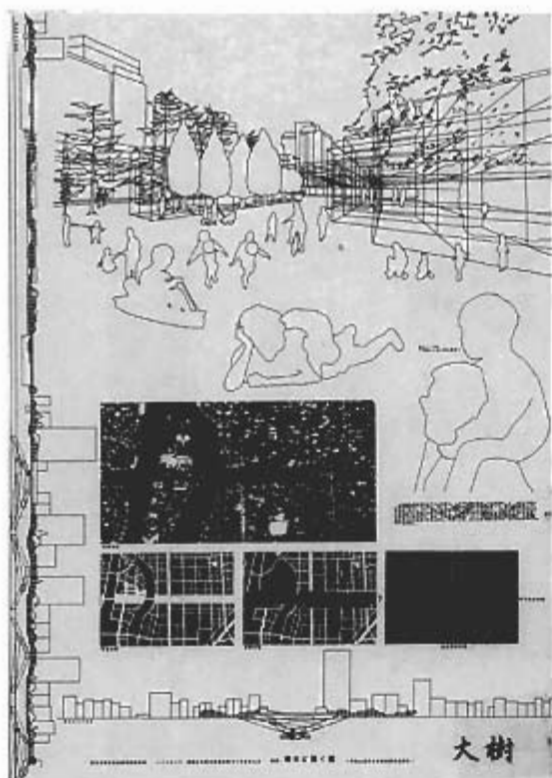
以上にて、本年度の設計競技の結果報告を終わりますが、今後ともこの設計競技がより発展していきますよう、皆様方の一層のご理解とご協力をお願い致します。

- |     |   |           |
|-----|---|-----------|
| 1等賞 | 石井 政美<br>垣谷 真<br>栗本 和良<br>姫宮 隆之         | (広島工業大学)  |
| 2等賞 | 倉谷 正敏                                   | (近畿大学)    |
| 3等賞 | 藤野 佐絵子                                  | (近畿大学)    |
| 佳作  | 竹内 洋人                                   | (広島大学大学院) |
| 佳作  | 青盛 健<br>黒田 麻希<br>播本 貴<br>桑田 修一<br>秦 満佐子 | (広島工業大学)  |

第22回五三会建築設計競技実行委員会

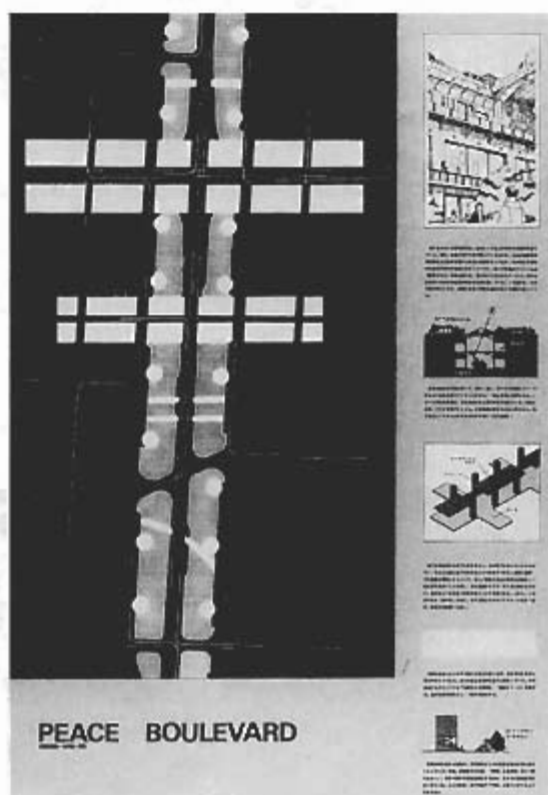


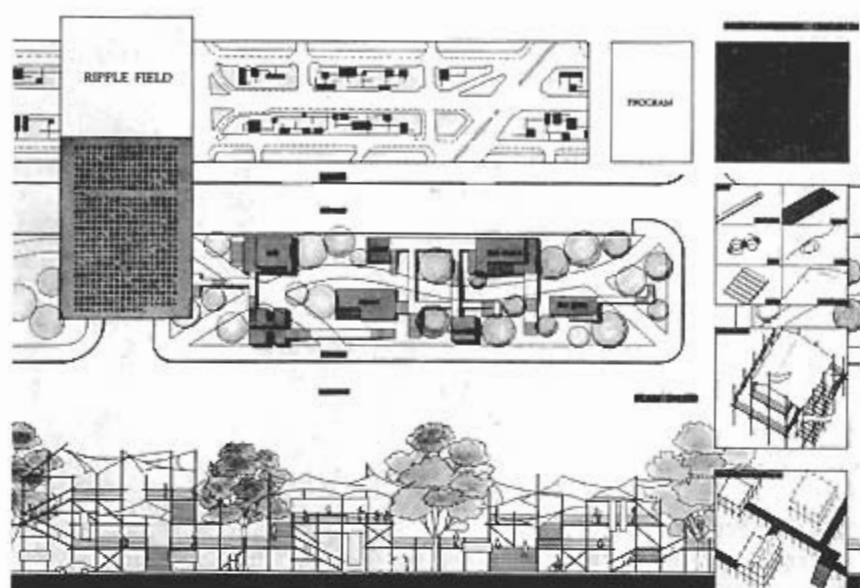
1等賞 石井 政美・垣谷 真・栗本 和良・姫宮 隆之 (広島工業大学)



2等賞  
倉谷 正敏 (近畿大学)

3等賞  
藤野 佐絵子 (近畿大学)



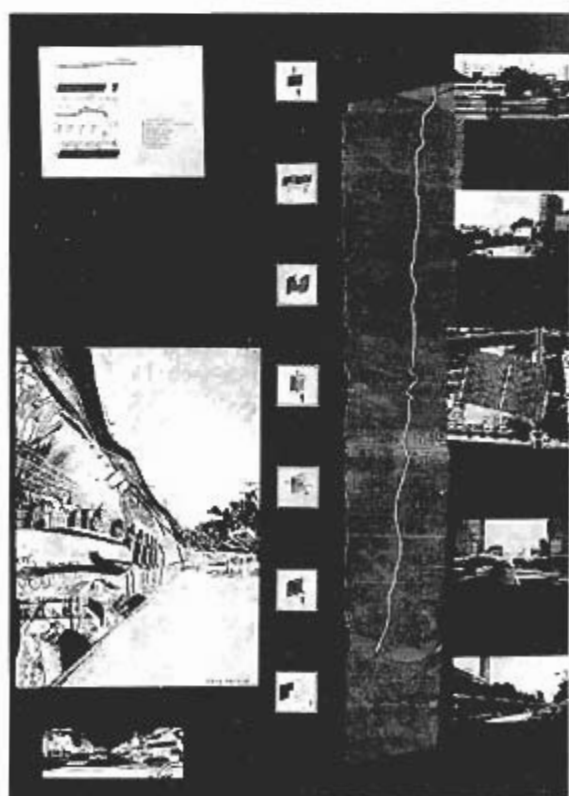


佳作

竹内 洋人 (広島大学大学院)

佳作

青盛 健  
黒田 麻希  
播本 貴  
桑田 修一  
秦 満佐子 (広島工業大学)



近畿大学工学部教授 沢登 宜久

平和公園もさることながら、広島に50年の歳月が見事に育て上げたもの、それは何をおいても平和大通りだと感じていました。

しかしながら、大通りの現実、見事に都市を分断する巨大な障壁になってしまっています。この壁を、風通しのよいものにする装置、そんなことが出題の主眼でした。

ともあれ、主題は、平和大通りを、単なる駐車場から解放し、東西に延び、南北をつなぐ市民の空間に仕立てあげることです。

審査の視点は、長大な帯状の空間をどうするのか、これが分断する南北の広がりやどう回復するのかという発想の立脚点、それをいかに空間化するかという建築的な展開、それらが的確に伝達されるものになっているかという表現の問題の3点に絞りました。

選ばれた5点の作品は、いずれ劣らぬ力作で、その順序にはあまり意味はないとさえいえますが、1席の作品は、既存のコンテキストをしっかりと読取った上で、可能な方法での肌理の細かい動き掛けを組み立てており、その表現にやや思い切りを欠く憾みがないでも



ないのですが、3つの視点のバランスの良さで抜きん出ているといえます。欲をいえば、仕掛けた部分に、通りの幅や長さを暗示するような表現ができていれば、一層よかったですのではないかと思います。

2席の作品は、通りを貫きながら、地域のコンテキストに合った展開に対応し、さらにそれぞれが南北へも滲み出しながら広がって行くイメージが暗示されているものです。この暗示は、あるいは審査側の深読みであったかもしれませんが、そうではないと主張するためには、展開の具体例を2、3シーン明示する必要があったものと思います。

3席の作品は、南北を分断する通りの物理的な幅を、いかに解消するかという点に焦点を絞った作品です。長手の展開は、誰が考えても大同小異ではないかという取り組みへの視点が見え隠れしてはいますが、伏流として地下に沈んだ街が、泉として大通りに湧きだし、東西の大きな流れにつながっていくイメージが、空間として提示されないままに終わっていることが惜しまれます。

佳作の2点は、対照的な作品でした。1点



めっきり春らしくなりましたが、皆さまには  
ご活躍のことと存じます。

さて、「五三会誌」の記事の中に、下記の通  
り誤りがありました。お詫びして訂正させてい  
ただきます。

記

訂正箇所 22ページ（審査講評）

誤

近畿大学工学部教授

沢 登 宜 久

正

近畿大学工学部教授

澤 登 宜 久

は、平和大通りに展開する時空を見据えていこうということであったようです。空間的には、見えない壁を逆手にとって、都市の風景が持つ立面図的な壁を意識的な構造にしてみようということなのかも知れません。重層する壁的な風景が、実は壁を縫う隙間によって加速される風速として街の広がりを出現する、そんなコンセプトかなと受け取ったのですが、時間の意味がやや消化不良、抽象的であることがそのまま難解さとして残ってしまい、播かれた種が見えないのが難点でした。

もう1点は、具体的にディテイルを組み立て、確かな図面表現で具体的な提案をしたものです。惜しむらくは、やや建築的に固まりすぎて、装置のもつ空間の可能性が縮こまりすぎているようです。内外に生み出される空間の意外な可能性が、表現にのってくればよかったのと思います。

総じて大通りの長さのみに目を奪われて、これと格闘してしまった作品が多かったようです。歩き通しても1時間ほどの距離ですから、脇道にそれたりしながら、楽しく歩き通せてしまうような空間が、出題側の期待であったのですが、すぐさま瞬時に距離を越えてしまう視線や車の速度に視点を据えてしまった作品に、自分の足で歩く楽しみを忘れてしまった現代人の弱点をみる思いがします。

選に漏れた作品のなかにも、捨てがたいものが多々あったわけですが、どの作品もき

かけだけは、しっかりとつかんでいたといえます。コンセプトを練り上げ、それを表現に結びつければ、豊かな可能性はもっているものと受けとめました。御応募下さった各位の一層の健闘を祈りたいと思います。

最後に、意義深いコンペを続けられ、その企画、運営の任に当たってこられた五三会の皆様に敬意を表しますとともに、貴重な機会を与えてくださったことに満腔の謝意を表したいと思います。



## 第23回五三会建築設計競技のお知らせ

次回で23回目となります五三会設計競技は、例年通り「国際平和文化都市広島  
の街づくりを考える」をメインテーマに、課題作成・審査を母校、広島工業大  
学の先生にお願いする予定にしております。

賞金総額は15万円。その他詳しい課題、応募要綱は近日中に各大学、高専に  
ポスターにてお知らせいたします。

多くの御応募お待ちしております。

# (1995年度 卒業研究テーマ一覧)

## (指導教員 藤原 道正)

- 大石 賢二・吉岡康仁  
下水処理水の未利用エネルギーの有効利用に関する研究
- 熊本 訓大・田川 秀行  
河川水の未利用エネルギーの有効利用に関する研究
- 桑原 幸士・小林 達也  
ゴミ処理施設の未利用エネルギーの有効利用に関する研究
- 田中 ゆかり  
半岡 幸子  
建物維持・管理・保守・運営情報の有効利用に関する研究
- 徳本 誠  
業務用厨房における作業時の代謝熱量に関する研究
- 中光 一浩  
入浴時の人体の熱収支の算定方法に関する研究
- 西村 英亮  
就寝時の人体の熱収支の算定方法に関する研究
- 原 正恵  
渡部 亮  
業務用厨房の空調時の熱負荷に関する研究  
日射環境下の人体の熱収支の算定方法に関する研究

## (指導教員 中尾 好昭)

- 上野 和徳  
岡村 啓造  
木本 英哲  
郷原 直樹  
武田 剛
- 中島 裕泰  
藤井 智之  
問瀬 芳弘
- 松浦 敬三  
松本 孝志  
森 晴彦  
脚邊健太郎
- 現場溶接の自動化に関する研究  
純ラーメン建物の耐震強度に関する研究  
基礎・地盤系衝撃振動の模型実験  
地盤振動の有限要素解析に関する研究  
植根式ミキサーを用いて製造する高強度コンクリートの調合に関する研究  
骨組構造の座屈解析に関する研究  
RC床の振動解析・実験  
フレーム構造の弾塑性地震応答解析に関する研究  
PC化階段接合部の耐力実験  
法隆寺金堂の振動解析  
法隆寺金堂の立体構造解析  
PC化階段の施工法に関する研究

## (指導教員 佐藤 立美)

- 沖本 陽平  
上川 毅文
- 坂田 洋一  
道管ひとみ
- 中田 亜紀
- 田川 真祐  
中村 真人
- 山田 哲也
- 既存RC建築物の耐震性能に関する研究  
中空スラブの中空管端部の応力集中の低減に関する研究  
中空スラブのエニット化工法に関する研究  
コンファインドRC柱の耐力と靱性に関する研究  
安差精田形補強金物によるRC有孔梁の開口補強に関する実験的研究  
建設副産物の再利用に関する基礎的研究  
在来工法の木造スラブの変形性状に関する研究  
斜め貫通孔を有するRC有孔梁の剪断耐力に関する実験的研究

## (指導教員 丹羽 博亨)

- 川崎慎一郎  
草地 法大  
武安 剛  
古川 茂  
安田 知謙  
高地 利彰
- 妙楽寺の伽藍配置に関する研究  
多田院の伽藍配置に関する研究  
如意寺の伽藍配置に関する研究  
法界寺の伽藍配置に関する研究  
一乗寺の伽藍配置に関する研究  
清澄寺の伽藍配置に関する研究

## (指導教員 水田 一征)

- 青盛 健  
金高 東清  
黒田 麻希  
小田 和明  
北田 修治
- 播本 貴  
六郎万康二
- (論文) “ヴェンチュリーを巡って”  
(論文) 人間の両柄について  
(設計) “橋” “哲んなが語り合場”  
(設計) CLUB SPACE -DAI-  
(設計) 中央公園に建つ “共場の場” としての複合建築  
(設計) よき隣人の為の詩  
(設計) CENTER COURT

## (指導教員 森保 洋之)

- 迫田 規也  
木村 仁紀
- 井崎 貴子  
高 博史  
藤原 住子  
相本 栄治
- 室内空間の視覚的把握に関する研究(論文)  
広島基町高層住宅の再生計画に関する基礎的研究(論文)  
広島市における都心居住に関する研究(論文)  
information square(設計)  
「十字架を背負った広場のために」(設計)  
Come into View information control system(設計)

## (指導教員 坂田 泉)

- 宇野 隆将  
川村 航誌  
佐々木伸昌  
田室 悠  
永井 史枝  
沼 康裕  
浜田 耕司  
樺本 大輔  
森山 聡
- 熊野町筆の里  
宮島を望む大野町リゾート開発  
広島市草津郷土館  
広島城下町の形成  
広島地方の茶室について  
PLANT MUSEUM in  
ふれあいのある老後  
三原市身障者福祉施設  
遊び心のもてる木造の小学校

## (指導教員 菅原 辰幸)

- 安倍 利明  
栗津 健一  
牛田 勝之
- 田中 卓
- 野村 健一
- 前川 健  
宮川 明之  
宮本 伸夫  
山川慎太郎
- 集合住宅  
(設計)尾道駅前地区再整備計画  
(論文)児童公園の利用並びに整備に関する研究  
(論文)水辺空間の施設(設置物)整備に関する研究  
(論文)街路空間における自動販売機の設置の実態とその分析  
(論文)橋詰の形態と役割  
(論文)夜間の川辺空間の整備に関する研究  
(設計)ウォーターフロント(宮島口)  
(論文)河岸緑地の景観に関する研究

## (指導教員 天満 祥弥)

- 今本 雅昭
- 岩田 健裕  
宮向 三徳  
大野真理香  
岡田 英久  
河本 篤志
- 西山 宏明
- 野上かおり  
濱中 信之  
日高 裕一  
米田 勝
- 建築音響の内容理解度試験による評価に関する研究  
建築外装材の劣化の調査と研究  
セカンドハウス群の計画・設計  
都市における建築物の色彩の調査研究  
低層集合住宅の計画  
省エネルギーを考慮したホテルの建築設備計画  
コーポラティブハウスの計画(共に生きる集合住宅)  
美術館計画  
2×4工法による3階建集合住宅の計画  
高齢者、対応型住宅の計画  
建築経済の視点から見た建設業の経営

## (指導教員 高松 隆夫)

- 内山 健司
- 太田 宏治
- 大野 克也
- 大平 満男
- 久保田雅生
- 柴田 健一
- 下和田 修
- 白神 栄一
- 「目違いのある突き合せ溶接継ぎ手の引張強度に関する実験的研究」  
「柱はり接合部のねじりを考慮した立体骨組構造解析法に関する研究」  
「鉄骨柱の局部座屈挙動に関する実験的研究」  
「直交りからの曲げモーメントの作用を受ける角形鋼管柱・H形鋼はり接合部の塑性耐力に関する解析的研究」  
「柱はり接合部のせん断変形を考慮した立体骨組構造解析法に関する研究」  
「直交りからの曲げモーメントの作用を受ける角形鋼管柱・H形鋼はり接合部の復元力特性に関する解析的研究」  
「2方向水平外力を受けるH形鋼はり・角形鋼管柱接合部の塑性耐力に関する解析的研究」  
「軸力と曲げを受けるH形鋼断面柱の補剛に関する実験的研究」



- 鈴木 正伸 「鉄骨柱の局部座屈挙動に関する解析的研究」  
 曾我 潤 「直交ばりからの曲げモーメントの作用を受ける角形鋼管柱・H形鋼はり接合部の複元力特性に関する実験的研究」  
 西川 照臣 「軸力と曲げを受けるH形断面柱の変形性状に関する実験的研究」  
 畑本 清香 「局部座屈を生じる高張力鋼H形断面柱の変形性状に関する実験的研究」  
 平山 圭紀 「軸力と曲げを受ける高張力H形断面柱の曲げねじれ座屈後の変形性状に関する実験的研究」  
 載内 紀吉 「積層ゴムアイソレータの非線形有限要素解析法に関する研究」

(指導教員 佐藤 洋)

- 後塚久仁子 記憶の街角  
 石井 政美 NOTHING TO DO-HOMOGENOUS SPACE  
 垣谷 真 TAKE PLACE  
 栗本 和良 E・N・V・I・R・O・N・M・E・N・T  
 興水 雅社 自然と素材形態の反発から生ずる自然意識  
 崎本 修孝 FLOW LANE  
 寺田 雅晴 建築とアースワークにおける、身体性と時間性・場所性の関係についての考察  
 中村 一雄 自然と芸術の島  
 姫宮 隆之 DELIRIOUS  
 藤重 英郎 「岩国市の象徴的なもの」-岩国市民の一体化を目指して-  
 宮原こずえ 「解体」から生まれる虚構というユートピアの世界的追求 -P、アイゼンマンと寺山修司-

(指導教員 西川 加彌)

- 上原 昌代 (論文)「日本住宅における畳間の現状」についての研究-将来の畳の方向性-  
 武田 勝 (設計)「活気ある街の中で」-交流重視型高齢者住宅-  
 永安 達也 (論文)「ハウスプランニングの設計手法に関する研究」-アメリカと日本を比較して-  
 早川 尊広 (設計)「BREEZE」-ここちよい風を感じる-  
 平井 敦朗 (設計)「四季」-交流とやすらぎのある住環境づくり-  
 正留 紀恵 (設計)「風車」-風を感じる場所-  
 村内 博明 (設計)「風車」-人と水がふれあえる場の創造-  
 保森 祐二 (設計)「CLOCK MUSEUM」-温故知新-  
 山田 雅幸 (設計)「Amusement Plaza in Tottori」-水・砂・緑の共存する安らぎ空間-  
 中野 俊久 (設計)「海風荘」-海辺の暮らし-  
 津田 聖吾 (設計)「MAPLE TOWN」-店舗付集合住宅の設計-

(指導教員 中村 隆夫)

- 湯浅 靖子 Bayside place in Onomichi -海岸及び駅前の再開発計画-  
 小島 恵 風穴 -やすらぎを求めて-  
 佐藤 寛征 広島港再開発計画  
 玖島 康之 西高尾駅周辺の再開発計画  
 沢村 大輔 野球場を中心とした多目的施設  
 出来田孝司 自然環境と共生する学園施設  
 土橋 幸典 ハウステンプス周辺のレクリエーション施設  
 松尾 薫 鳥取砂丘に隣接する宿泊施設

(指導教員 野添 久親)

- 秋山 宣洋 地盤の違いによる建造物の地震時応答性状に関する研究  
 沖川 信昭 木造建物の免震化に関する研究  
 川上 敬之 地震時における層状の違いによる地表面応答に関する研究  
 久保田 淳 鉛直振動における群杭の動的インピーダンスの評価に関する研究

- 高岡 直輝 水平振動における群杭の動的インピーダンスの評価に関する研究  
 高田 兼五 滑り支承による免震建造物の動的解析  
 竹本 雄治 地震時による地下室を有する建造物の振動性状に関する研究  
 寺岡 隆之 地震時における積層ゴムで支持された建造物の動的解析  
 三浦 統義 壁式PCC構造の摩擦接合の差異による地震応答に関する研究  
 森貞 信彦 地震時における建物の2次部材の破壊制御効果に関する研究  
 山上 真二 地震時における飽和砂質地盤の応答性状に関する研究  
 吉田 浩二 直接基礎の振動性状に関する近似解析

(指導教員 廣川 協一)

- 野坂 功司 車イス利用者の外出時の障害に関する基礎的研究  
 山崎 正仁 文化センターにおけるノーマライゼーションに関する基礎的研究  
 中石 篤志 図書館におけるノーマライゼーションに関する基礎的研究  
 水谷 剛 二世帯集合住宅及びデイケアサービスセンターの設計

(指導教員 清田 誠彦)

- 崎山 知洋・山崎 直彦 市街地街路空間の風通しと熱環境に関する研究  
 宇都 慎一・田海 知之・戸田 訓弘 都市形成が都市内気候に及ぼす影響に関する研究  
 桂 正和・加藤 賢一・能見公美子・久富大祐 業務用厨房のエネルギー需要と作業環境に関する研究  
 久保 正典・杉本浩太郎・富田 茂樹・浜小路秀行 都市の表面被覆が都市内気候に及ぼす影響に関する研究

(指導教員 手越 義昭)

- 曾我 政時 住宅平面構成の類型化に基づく数値化と検索システム(その1 住宅平面の類型化)  
 香月 茂幸 ニューラルネットワークに生成検証法を組み合わせた設計支援に関する研究(その1 設計例として)  
 大野 真吾 ニューラルネットワークに生成検証法を組み合わせた設計支援に関する研究(その2 設計例として)  
 田中 潤一 オブジェクト指向言語に基づいた建築物属性モデルの研究(その2 仕様記述言語)  
 相田 美雄 ファジ理論に生成検証法を組み合わせた設計支援に関する研究(その1 住宅の空間設計を例として)  
 山口 裕剛 住宅平面構成の類型化に基づく数値化と検索システム(その2 設計知識の数値化)  
 亀石 道人 オブジェクト指向言語に基づいた建築物属性モデルの研究(その1 オブジェクト指向モデル)  
 富水 紀香 コミュニティ施設の設計に関する研究(ショッピング・モールの設計プロセスの分析)  
 橋本あかね コミュニティ施設の設計に関する研究(コミュニティ・シルバースターの設計プロセスの分析)  
 森岡 真理 コミュニティ施設の設計に関する研究(コミュニティ・スポーツセンターの設計プロセスの分析)  
 瀬尾 泉彦 ファジ理論に生成検証法を組み合わせた設計支援に関する研究(その2 中学校の直階段を例として)  
 内藤 雅子 International Horse Riding Club 広島 -乗馬施設の設計プロセスの分析-  
 横山 新 総合病院の診療機能を維持して行う増改築の平面計画に関する事例的研究  
 矢島 冬樹 コンピュータリテラシーが建築設計のCAD製図に及ぼす影響に関する研究

# 1995年度卒業者就職先等一覧表

## (エンジニアリングコース)

氏名	事業所	氏名	事業所
相安綾	本部	保山山	森川
綾粟津	塚久	山山	川口
井崎	健一	山田	田浅
石上	貴政	湯山	山藤
牛原	昌勝	横山	田野
宇野	隆隆	佐津	野坂
垣谷	道慎	中長	野田
亀石	慎一	野安	坂崎
川崎	仁法	山六	嶋地
木村	康雅	高	
草刈	悦伸		
奥小	寛大		
迫佐	博		
佐々	田		
澤高	室		
武田	孝		
出富	紀幸		
土内	雅史		
永沼	達康		
野野	健あ		
橋鼻	真耕		
濱早	尊敦		
平藤	英佳		
藤前	紀大		
正松	明伸		
宮宮	博		
村森			

\*\*\*\*\*

〔 広島工業大学建築学科 〕  
教職員及び非常勤講師名簿

〔建築学科教職員・専任教職員〕

氏 名	住 所	郵便番号	電話番号
篠原道正	教授		
中尾好昭	〃		
佐藤立美	〃		
丹羽博亨	〃		
水田一征	〃		
椋代仁朗	〃		
森保洋之	〃		
坂田泉	〃		
喜久川政吉	〃		
菅原辰幸	〃		
天満祥弥	助教授		
高松隆夫	〃		
佐藤洋	〃		
西川加禰	〃		
中村隆夫	〃		
野添久祝	〃		
廣川協一	〃		
清田誠良	〃		
手越義昭	〃		
大林真	技術職員		

〔非常勤講師〕

花輪 恒  
富永 晃司

(デザインコース)

事 業 所

氏 名  
 秋山 宣 洋 裕 徳 徳 司 一 二 治 吾 香 男 造 昭 平 幸 和 一 文 之 哲 典 淳 生 大 士 志 也 樹 一 洋 之 一 修 一 朗 伸 彦 潤 時 輝 五 行 祐 剛 治 一 氏  
 岩 向 健 三 和 健 慎 賢 宏 真 真 満 啓 信 陽 茂 正 賢 毅 敬 英 正 雅 調 幸 篤 達 直 洋 知 知 健 榮 浩 太 正 皇 政 直 兼 秀 真 雄 潤 ゆ 氏  
 上 野 山 都 石 田 野 野 平 村 川 本 月 藤 川 上 本 保 田 本 原 本 林 原 田 山 海 田 田 神 本 木 尾 我 我 岡 田 川 川 田 本 中 中  
 内 宇 大 太 大 大 大 岡 沖 沖 沖 香 桂 加 上 川 木 久 久 久 保 田 久 保 田 熊 桑 河 小 郷 坂 崎 皿 柴 下 和 白 杉 鈴 瀬 曾 曾 高 高 田 田 武 竹 田 田

氏 名  
 寺 岡 隆 茂 小 之 樹 み 泰 紀 浩 人 臣 明 子 り 香 行 之 祐 一 子 紀 之 久 弘 志 義 彦 彦 樹 郎 告 二 彦 也 仁 二 勝 亮 雄 氏  
 富 道 中 中 中 西 西 能 野 畑 濱 濱 原 久 日 平 平 藤 藤 問 松 三 森 森 矢 柳 藪 山 山 山 吉 吉 米 渡 和  
 菅 島 田 光 村 川 山 見 上 本 路 中 富 高 岡 山 井 井 瀬 本 浦 貞 島 辺 内 上 崎 田 岡 田 田 部 田  
 中 中 西 西 能 野 畑 濱 濱 原 久 日 平 平 藤 藤 問 松 三 森 森 矢 柳 藪 山 山 山 吉 吉 米 渡 和

# 平成8年度総会のお知らせ

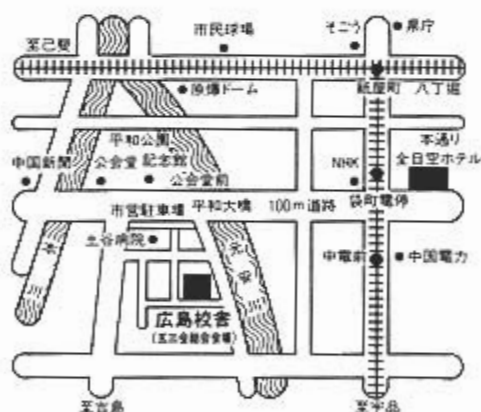
日 時 平成8年4月27日(土)

1. 五三会総会……午後3時
2. 工大同窓会……午後4時
3. 懇親会……午後5時30分頃(県民文化センター)

場 所 「五三会」総会 広島市中区中島町5-7 鶴学園広島校舎 TEL082-249-1251(代)  
 工大総会・懇親会 広島市中区大手町1丁目5-3  
 鯉城会館(広島県民文化センター) TEL082-245-2311(代)

懇親会会費 5,000円 なお、懇親会は、工大同窓会と一緒にいきます。(当日御持参下さい。)

## 〔 案 内 図 〕



## 交通機関

- △広島駅より  
 広島バス-100米經由空港行き・平和公園下車  
 広島バス-吉島営業所行き・平和公園前下車
- △バスセンターより  
 市内電車-宇品行き・袋町又は中電前下車  
 (100米道路平和大橋西詰南へ50m)
- △広島空港より  
 市内電車-紙屋町經由広島駅行き、又は己斐  
 行き(中電前又は袋町下車100米道  
 路平和大橋西詰南へ50m)
- △広島空港より  
 広島バス-100米經由広島駅行き・平和公園  
 前下車

# 五三會

# 活動報告



幹事長 山野正晴

「五三會」会員各位様におかれましては、益々の御活躍のことと存じます。

広島工業大学も建築学科の改組転換にともない今年度の4年生をもって建築学科の最後の卒業生を送出すわけですが、「五三會」も新しい環境デザイン学科および土木工学科建築工学コースの学生諸氏をうけいれるがごとく会則の改訂等準備・体制をととのえております。

平成7年度の活動は、まず6月の新入会員の歓迎会に始まり、「五三會」建築競技設計、10月には広島工業大学の先生方をまじえての親睦ゴルフ大会、11月、「五三會」OBによる就職ガイダンスの開催、12月、在学生と膝を交えての忘年会そして会報誌の編集というふうにOBどうしの交流はもちろんのこととして大学と「五三會」・在学生と「五三會」という関係の中で母校の発展へむけて着実に活動の輪を広げております。今後も「五三會」活動として会員各位の御理解、御協力ならびに御参加のほど宜しく願いいたします。

また、文末になりましたが「五三會」コンペの審査員を快く引き受けて下さり適切なアドバイスを下さった近畿大学工学部教授の澤登先生に書面をお借りしてお礼申し上げます。

## 平成7年度活動報告

1. 会報誌「五三會」第23号の発刊
2. 第22回「五三會」建築設計競技の実施
3. 「五三會」会員組織の充実
4. 在学生との交流活動
5. 「五三會」会則改訂案の作成
6. 「五三會」ゴルフコンペの開催
7. 「五三會」会員名簿のデータベース化

## 平成7年度役員

- (会 長) 中島伸夫(㈱LAT環境設計事務所)  
(副 会 長) 森田洋生(広島市役所)  
梶山孝之(梶山設計室)  
(会 計) 松本孝志(広島市都市整備公社)  
木下知夫(㈱近代設計)  
(会計監査) 金川 豊(広島市役所)  
上之博文(㈱LAT環境設計事務所)  
(書 記) 秀浦忠(㈱不動建設)  
下谷文子(広島市役所)  
(幹 事 長) 山野正晴(㈱アトリエUD)

「五三會」は昭和58年度から終身会費制を導入しており、会員のみ会報を発送させてもらっています。会費未払いの方及未加入の方は早急に手続きをお願いしたいと思います。下記「五三會」事務局へご連絡下されば振込用紙を送らせていただきます。

## 〔五三會事務局〕

広島市佐伯区三宅2丁目1-1

広島工業大学環境デザイン学科菅原研究室内  
〒731-51 TEL(082)921-3121

## 五三会収支決算報告

### 平成7年度収支決算報告 (平成8年3月1日現在)

◆収入の部 (単位 円)		
繰越金		5,154,258
新会員会費		910,000
広告料		0
合 計		6,064,258

◆支出の部 (単位 円)		
会議費		68,168
バイト費		71,945
印刷費		0
金融機関手数料		1,412
雑費		0
会報誌印刷費		173,040
会報誌郵送費		117,430
設計競技費		317,799
学生部会助成金		50,000
新入会員歓迎費		54,700
予備費		0
繰越金		5,209,764
合 計		6,064,258

### 平成8年度収支予算(案)

◆収入の部 (単位 円)		
繰越金		5,209,764
新会員会費		900,000
広告料		800,000
合 計		6,909,764

◆支出の部 (単位 円)		
会議費		100,000
バイト費		100,000
印刷費		50,000
金融機関手数料		2,000
雑費		10,000
会報誌印刷費		500,000
会報誌郵送費		270,000
設計競技費		320,000
小冊子印刷代補助		200,000
新入会員歓迎費		60,000
予備費		100,000
繰越金		5,197,764
合 計		6,909,764

## 建築学科記念事業基金収支決算報告

### 平成7年度収支決算報告 (平成8年3月1日現在)

◆収入の部 (単位 円)		
繰越金		2,806,053
合 計		2,806,053

◆支出の部 (単位 円)		
会議費		14,270
在学生交流費		134,789
在学生助成金		100,000
繰越金		2,556,994
合 計		2,806,053

### 平成8年度収支予算(案)

◆収入の部 (単位 円)		
繰越金		2,556,994
合 計		2,556,994

◆支出の部 (単位 円)		
会議費		15,000
座談会小冊子作成費		250,000
在学生交流費		200,000
在学生助成金		100,000
繰越金		1,991,994
合 計		2,556,994

# 広島工業大学建築学科同窓会 「五三会」会則

## 第一章 総 則

- 第 1 条 本会は広島工業大学建築学科同窓会「五三会」と称する。
- 第 2 条 本会は本部を広島工業大学建築学科内に置く。但し、総会で必要と認めた場合に支部を置く事を得る。
- 第 3 条 本会は会員相互の交誼を厚くし、かつ母校建築学科の発展に貢献することを目的とする。
- 第 4 条 本会は前述の目的達成の為に下記の事業を行なう。
- (1) 集 会
  - (2) 会員相互の連絡並びに共助に関する事
  - (3) 会誌及び会員名簿の発刊
  - (4) 母校建築学科に対する精神的、物質的援助
  - (5) その他本会の目的達成に必要な事

## 第二章 会 員

- 第 5 条 本会は下記の者を以って組織する。
- (1) 正 会 員 広島工業大学建築学科卒業生のうち会費を納入した者
  - (2) 準 会 員 正会員以外の広島工業大学建築学科卒業生
  - (3) 学生会員 広島工業大学建築学科在学生
  - (4) 特別会員 母校職員及び旧職員
  - (5) 名誉会員 本会の発展に貢献し、名誉会員としてふさわしいと総会で認められた者

## 第三章 役 員

- 第 6 条 本会は下記の役員を置く。
- |           |           |           |     |
|-----------|-----------|-----------|-----|
| (1) 名誉会長  | 置くことができる  | (2) 会 長   | 1 名 |
| (3) 副 会 長 | 2 名       | (4) 会 計   | 2 名 |
| (5) 会計監査  | 2 名       | (6) 幹 事 長 | 1 名 |
| (7) 幹 事   | 若干名       | (8) 書 記   | 2 名 |
| (9) 評 議 員 | 各卒業年度に若干名 |           |     |
- 第 7 条 本会の役員は次の方法で決める。
- (1) 名誉会長は総会をもって推す。
  - (2) 会長・副会長・幹事・会計・会計監査・書記・評議員は総会で正会員の中から選ぶ。
  - (3) 幹事長は幹事の中から互選する。
  - (4) 幹事は総会の議決により正会員の中から委嘱する。
- 第 8 条 各役員はそれぞれ次の任務をもつ。
- (1) 会 長 本会を代表し会務を統べる
  - (2) 副 会 長 会長を助け支障がある時は代理する
  - (3) 会 計 会計事務に当る



- (4) 会計監査 会計を監査する
- (5) 幹事長 会務を主宰する
- (6) 幹事 会務を処する
- (7) 書記 書記事務に当る
- (8) 評議員 会務を評議する

第 9 条 役員任期は一ケ年とし再任をさまたげない。但し欠員は役員会にはかり補充し、これによって就任した者の任期は前任者の残りの期間とする。

#### 第四章 顧問

第 10 条 この会に顧問若干名をおく  
 (1) 顧問は総会の議決により適任者を委嘱する  
 (2) 顧問は会の諮問に応じる

#### 第五章 会議

第 11 条 会議を分けて定期総会、臨時総会、役員会及び事業委員会とする。  
 第 12 条 総会は最高の議決機関で毎年 1 回開く。臨時総会は役員会が必要と認めた時会長が招集する。  
 第 13 条 総会は次のことを決める。  
 (1) 会則の変更と改正 (2) 決算及び予算  
 (3) 役員改選 (4) その他重要な事  
 第 14 条 役員会が会長が必要と認めた時招集し、次のことを決める。  
 (1) 総会に附議する原案 (2) この会の運営に関する諸事項  
 (3) 事業委員会の組織 (4) その他緊急事項の協議  
 第 15 条 事業委員会は必要に応じて幹事により組織し、第 4 条に掲げる事業についてその事務を処する。  
 第 16 条 会議の議決は会員の参会者の過半数をもって決定し、賛否同数の時は議長がこれを決定する。

#### 第六章 会計

第 17 条 この会の経費は会費、寄付金及びその他の収入をあてる。  
 (1) 会員は入会金と終身会費として、入会時 10,000 円を納入しなければならない。  
 (2) 学生会員は在学期間の会費として 3,000 円を納入しなければならない。  
 なお、学生会員の会計は本会計より独立させる → 学生部会  
 第 18 条 その会の会計年度は 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終る。

#### 第七章 委任事項

第 19 条 この会則に定めのあるもののほか、必要な事項は役員会においてこれを定める。

#### 付 則

終身会費については、昭和 58 年度から施行する。

本会報の「会長挨拶」でもご案内致しましたように、本年4月開催予定の総会で、「五三会々則」の改定が議題として提案される予定です。そこで、会員の皆様に事前にその内容をご検討頂きたく、〈改定案〉を掲載させていただきます。

〈改定案〉

## 広島工業大学建築・環境系同窓会 「五三会」会則

### 第一章 総 則

- 第1条 本会は広島工業大学工学部建築学科・同土木工学部建築工学コース・環境デザイン学科(以下、「建築・環境系」と称す)同窓会「五三会」と称する。
- 第2条 本会は、本部を広島工業大学内に置く。但し、総会で必要と認めた場合に支部を置くことを得る。
- 第3条 本会は会員相互の交誼を厚くし、かつ母校の建築・環境系学科の発展に貢献することを目的とする。
- 第4条 本会は前途の目的達成の為に下記の業務を行う。
- (1) 集 会
  - (2) 会員相互の連絡並びに共助に関する事
  - (3) 会誌及び会員名簿の発行
  - (4) 母校に対する精神的、物質的援助
  - (5) 会員の功績に対する顕彰
  - (6) その他本会の目的達成に必要な事

### 第二章 会 員

- 第5条 本会は下記の者を以て組織する。
- (1) 正 会 員 広島工業大学建築・環境系卒業生のうち会費を納入した者
  - (2) 準 会 員 正会員意外の広島工業大学建築・環境系卒業生  
広島工業大学建築・環境系在学生
  - (3) 特別会員 母校建築・環境系教職員及び旧教職員
  - (4) 名誉会員 本会の発展に貢献し、名誉会員としてふさわしいと総会で認められたもの

### 第三章 役 員

- 第6条 本会は下記の役員を置く。
- |           |          |           |    |
|-----------|----------|-----------|----|
| (1) 名誉会長  | 置くことができる | (2) 会 長   | 1名 |
| (3) 副 会 長 | 2名       | (4) 会 計   | 2名 |
| (5) 会計監査  | 2名       | (6) 幹 事 長 | 1名 |
| (7) 幹 事   | 若干名      | (8) 書 記   | 2名 |
- 第7条 本会の役員は次の方法で決める。
- (1) 名誉会長は総会をもって推す
  - (2) 会長・副会長・幹事・会計・会計監査・書記は総会で正会員の中から選ぶ
  - (3) 幹事長は幹事の中から互選する
  - (4) 幹事は総会の決議により正会員の中から委嘱する
- 第8条 各役員はそれぞれ次の任務を持つ。
- (1) 会 長 本会を代表し会務を総括する
  - (2) 副 会 長 会長を助け支障がある場合は代理する
  - (3) 会 計 会計事務に当たる
  - (4) 会計監査 会計を監査する
  - (5) 幹 事 長 会務を主宰する
  - (6) 幹 事 会報を処する
  - (7) 書 記 書記事務に当たる
- 第9条 役員は任期は一年とし再任をさまたげない。但し欠員は役員会にはかり補充し、これによって就任した者の前任者の残りの期間とする。

#### 第四章 顧問

- 第10条 この会に顧問を若干名をおく。  
(1) 顧問は総会の決議により適任者を委嘱する  
(2) 顧問は会の諮問に応じる

#### 第五章 会議

- 第11条 会議を分けて定期総会、臨時総会、役員会及び事業委員会とする。  
第12条 総会は最高の議決機関で毎年1回開く。臨時総会は役員会が必要と認めた時、会長が招集する。  
第13条 総会は次のことを決める。  
(1) 会則の変更と改正 (2) 決算及び予算  
(3) 事業委員会の組織 (4) その他緊急事項の協議  
第14条 役員会は会長が認めた時招集し、次のことを決める。  
(1) 総会に附議する原案 (2) この会の運営に関する諸事項  
(3) 事業委員会の組織 (4) その他緊急事項の協議  
第15条 事業委員会は必要に応じて幹事により組織し、第4条に掲げる事業についてその事務を処する。  
第16条 会議の議決は出席者の過半数をもって決定し、賛否同数の時は議長がこれを決定する。

#### 第六章 会計

- 第17条 この会の経費は会費、寄付金及びその他の収入をあてる。  
正会員の終身会費として、入会時に10,000を納入しなければならない。  
第18条 この会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

#### 第七章 委任事項

- 第19条 この会則に定めのあるもののほか、必要な事項は役員会においてこれを定める。

#### 付 則

- ・本会則は、平成8年度から施行する。
- ・旧会則で正会員であったものは、本会則における正会員に移行する。

「五三会」第23号 編集委員  
本山 慧子(H4) 榎熊谷組  
☎082-241-3221

〔連絡先〕  
五三会事務局  
広島市佐伯区三宅二丁目1番1号  
広島工業大学環境学部環境デザイン学科  
菅原研究室内  
(〒731-51) ☎082-921-3121代

広島工業大学建築学科同窓会会誌  
「五三会」第23号

編集責任者 本山 慧子  
発行責任者 中島 伸夫  
企画・製作 ハローテンイン  
発行 平成8年3月